

公益財団法人東京都交響楽団第15回定例理事会 議事要旨

- 1 日 時 平成30年6月5日(火)
10時28分から11時18分まで
- 2 場 所 エステック情報ビル 21階D会議室 (新宿区西新宿1-24-1)
- 3 出席者 理事数 9名 定足数 5名 出席 7名
出席者 近藤 誠一
赤羽 朋子
足助 紀彦
井福 正博
太田 誠一
葛岡 利明
鳥田 浩平
欠席者 岩代 太郎
佐伯 光司
監事
出席者 辺土名 厚
金子 光博

4 議事の経過及び結果

会議規程の規定により、議長に近藤理事長が就任した。定款の規定に基づき、議事録署名人に近藤理事長、赤羽常務理事、辺土名監事、金子監事を指名した。

【第1号議案】 平成29年度 事業報告書及び財務諸表について

(1) 内容

平成29年度 事業報告書及び財務諸表を、議案のとおり承認する。

(2) 質疑応答

(意見): 報告の中で小規模演奏会、例えば小学校や島しょ地域での演奏会が90回ほど開催され、1万6千名を超える方々に聴いていただいたとのことであった。こういう取り組みは手間も費用もかかり、楽員の負担も多いかと思うが、是非今後も継続して取り組んでもらいたい。

(意見): 公益財団法人としての役割の中で、音楽に対する関心を高める、裾野を広げるという意味では、特に島しょ部などに演奏に行くというのは非常に重要だと思う。一方で、技術レベルの維持、向上という観点からは、今回の事業報告の中にあるように、演奏機会の少ない曲にチャレンジするとなると、これも練習、リハーサル等が大変だと思う。その辺のバランスをうまくとっていただければと思う。

また今年度予定している大規模音楽祭で、都響がコンドルズと共演するというのは全く想像していなかった。皆さんからもどのような反応をいただくか分からないが、良いチャレンジをして欲しい。

(回答): 技術レベル、芸術レベルを上げて世界のトップクラスに仲間入りをする

ことや、必ずしもポピュラーでない、現代曲や日本人作曲家の曲で玄人の方々の評価を得ることと、子供たちも含めて幅広く裾野を広げていくこと、あるいは、若い芸術家たちにチャンスを与えて、エンカレッジしていくこと、いろいろな役割がオーケストラにはある。

全部できれば一番良いが、人的資源、財政資源が限られているため、オーケストラの特徴を最大に生かせるにはどういうバランスがいいのか、どういうミックスがいいのかということなどを常に考えていかなければいけないと思う。そういう観点で、いただいたご指摘は十分に肝に銘じ、良いバランスを常に追求し続けていく。

(3) 結果

賛成7名により、可決承認された。

【第2号議案】 第8回定例評議員会の開催について

(1) 内容

第8回定例評議員会の開催について、議案のとおりとする。

(2) 質疑応答

なし

(3) 結果

賛成7名により、可決承認された。

5 報告事項

○近藤理事長より、別紙「職務執行状況報告について」に基づき、平成30年3月31日から平成30年6月5日までの間の職務の執行状況につき報告がされ、これを了承した。

○赤羽常務理事より、別紙「職務執行状況報告について」に基づき、平成30年3月31日から平成30年6月5日までの間の職務の執行状況につき報告がされ、これを了承した。

○事務局より中期経営計画の実施状況について別紙「東京都交響楽団中期経営計画の実施状況（概要）」に基づき報告がされた。

[質疑応答]

(意見)：乳幼児に良い音楽を聴かせることは情操教育として大事で、同時に音楽好きだが乳幼児がいるからなかなか聴きに行けないという親御さんが、赤ちゃんを連れて一緒に聴ける、赤ちゃんが感動している様子を見て親としても喜ぶといった効果も極めて大きいので、乳幼児向けのコンサートは是非これからも進めていきたい。

(質問)：サステナビリティという観点からすると、財務基盤の強化は非常に重要で、今回自主財源比率が向上しているというのは良い事だと思うが、他の交響楽団や諸外国の楽団と比べてどうなのか、他と比べて都からの補助金の比率が高いのかなど、教えてもらいたい。

(回答)：日本オーケストラ連盟が、毎年各楽団の財務状況を調査しており、それが公表されている。N響はNHK、読響は読売新聞、都響は東京都、この三楽団はしっかりした母体が補助団体としてついており、収入に占める演奏収入の割合は3割から4割となっている。主に自主活動と民間支援で運営しているようなその他の楽団は、演奏収入の割合が7割から8割とい

う傾向である。

(質問)： サステナビリティという観点では、財政面もそうだが、楽員の数や質の話もある。楽員の確保あるいは育成について教えてほしい。

(回答)： 楽員の確保については、計画的にオーディションを行っている。昨年から募集期間を長くしたり、遠方や海外からの受験者のためにオーディションのピアノ伴奏者を都響が用意し、外国からも受験しやすくするなどの工夫をしている。

(質問)： 海外からの受験者はどれくらいいるのか？

(回答)： 数はまだ多くないが、書類審査では70～80名の応募があったとして10名いるかないかくらい。

(質問)： 都響の楽員の中で海外の方はいるのか？ヨーロッパの楽団などでは東洋人が少しいるようだが。

(回答)： 都響にはかつてはいたが、現在はいない。海外の楽団には東洋人の演奏家が比較的多くいる。今アメリカでは特に韓国や中国の方で、家族ごと移住している方が多い。アジア出身だが国籍はアメリカやドイツにあるという方も増えてきている。日本も、国籍は日本人だが出身は海外という方も出てくると、外国人だから日本人だからという区別はだんだんなくなり、もっと自然な形になっていくのではないかと思う。

(回答)： 日本は遠いし、言葉の問題もあり、生活するのに自信がないというバリアがあって、ぜひ日本でという人は必ずしも多くない。もっと日本に来やすくなって、日本に住むような人が増えれば、おのずと才能のある人は渡来してくると思う。

2020年をそのきっかけとして、単なる旅行者としてのインバウンドだけではなく、日本に住んでみる、日本で働くという人が増えてくると、日本社会そのものもそういった人たちを受け入れ、不便なく暮らせるような環境を整えていくという相乗効果により、将来はより多くの外国人がアプライし、実際にオーケストラの中でいい演奏をしてくれる人が増えるようになると思う。2020年はその大きなきっかけになる。我々も努力をしていかなければならないと思っている。